

令和6年度第2回農業大学校外部評価委員会
議事録（要旨）

日時 令和7年2月25日（火）14:00～15:30

場所 大分県立農業大学校 会議室

出席者

外部評価委員

大分県高等学校教育研究会農業部会長	佐藤智之
大分県指導農業士会長	仲井貞一
大分県指導農業士会副会長（地元（女性）農業者）	植木美和
大分県農業協同組合営農担当常務	宇都宮隆一
豊後大野市農業振興課長	赤嶺繁素
中部振興局農林漁村振興部長	生野栄城
農業大学校同窓会副会長	湯浅正徳

（欠席委員）

大分県農業法人協会会長 上原隆生

農業大学校

藤田校長、太田副校長、木村次長、有馬部長、手嶋部長、安達教授

議事内容

- ・審議事項「令和6年度重点目標の取組状況及び評価」について、状況説明と自己評価により次のとおりとなった、

運営方針1 活気あふれる学園づくり 目標を著しく未達成（50%以下）

運営方針2 質の高い教育の提供 目標を著しく未達成（50%以下）

運営方針3 農業の担い手確保 目標を未達成（50～80%）

現在の状況では上記の評価となったが資格取得等今後の状況により評価が変わることもある。

評価指標（数値目標）については見直すことも必要である。

- ・委員からあった意見等は以下のとおり

議事(1) 令和6年度重点目標と具体的取り組み結果について

◇運営方針1 活気あふれる学園づくり

○入学者は高校卒業したばかりの者だけなのか。

→大半が高校卒業したばかりの者。昔は1割程度、社会人等の過年度生がいた。定数を充足している研修部の就農準備研修や各地区でのファーマーズスクールなどが充実してきたこともあり、過年度生の入学が減ってきたと考えている。社会人等の存在は様々な考え方も出てきて、学生の教育にも良い影響もあると考えている。

○就農準備資金は対象なのか。

→概ね1年というのが条件なので、学部生も研修生も対象。

○生徒募集は高校でも苦勞している。生徒は、卒業生の状況に注目しており、農大を出た後の進路のアピールが大事だと思う。農大ではこのような農業ができるとか卒業生の現状をアピールすると良い。農業高校と連携して行くと良いのではないか。

→新規就業経営体支援課では、現場で輝く農業者を打ち出していく考えがあるが、農大のOBも結びつ

けたい。

○若い人が農業している姿を見ると効果的と思うので、アプローチしてほしい。

◇運営方針2 質の高い教育の提供

○資格取得で毒劇物が入っていないのか。JAなどの関連企業に就職する場合に役立つと思う。関連企業への就職等進路に合わせた資格取得を考えていくのが良いのではないか。

→過去の外部評価委員会で民間企業でフォークリフトが必要とのご意見があり、取得する資格に入れたところ。

○外部との連携の内容について教えてほしい。

→もちとうもろこしは大分高専と協力して取り組んでいる。また、地元酒造会社ではもちとうもろこしを原料に地ビールを造っているし、また麦の研究もしてほしいと言われている。

農家と協力し、除草効果があると言われている鉄ミネラル農法にも取り組んでいる。

○外部との連携により教育効果が上がっている。マスコミにも取り上げてもらえばPR効果も上がると思う。

○資格取得で「日本農業技術検定3級相当の専門知識習得」とあるので、既に持っている学生もカウントしてよいのではないか。

→アプローチの結果について評価なので、例えば分母を受験者数にするなど検討したい。また、来年度1回目の評価委員会で議論させていただきたい。

◇運営方針3 農業の担い手確保

○関連企業はどういうところか。

→農業機械関係など。大学への編入もある。近年は愛媛大学、東海大学など。

○高校を卒業して農業法人に就職しても辞める人が多い。高校生は卒業生の動向を見ているので、就職後の状況も把握しておく方が良いのではないか。

議事(2) その他

○2/3(月)に女子学生との交流があり、学生6名、研修生5名が参加したが、実際に農業をしている人の話には興味があるようだった。色々な考え方に触れるのも大事だと思うので、学生と研修生の交流があるとよいと思う。

○農業高校からの入学者数が少なくなっている。農大に行くにしても、畜産をしたいので鹿児島農大に、米を作りたいので新潟農大にと、県外へ行っている。目的を持ち、進学先を選んでいるので、大分農大の特徴、勝るものをアピールするのが大事だと思う。

→高校生は1年の時から農大に来てくれているが、農大で生産する力が落ちてきて目玉になるものが足りず、外へのPRがなかなかできていない。

学校の中で困っていく教育ではなく、外に連れて行き農業をやっている人の話を直に聞く学びも提供していきたい。

○入学の対象となる高校生に向けてアピールできるよう取り組みを進めてもらいたい。高校としても農大を見る機会は作っていく。

→海外研修は費用が上がり来年は35万円の負担となっている。今後、更に大きくなることも考えられ、学生に主体性がないと負担の割りに効果がない。国内研修も含めて農家等外部と連携した取り組みを増やしていきたい。

○今年度から全寮制から一部通学可能としたが状況はどうか。

→令和6年度は通学希望の学生はいなかった。令和7年度の入学生で通学希望は5名前後。